

特別  
10  
5286  
2





起正德三年五月至同六年三月



兼山秘策



麗澤

第二







































一、此等諸君の爲めに、とてしるべき事なれば、  
その爲めに、あつた地味、  
その爲めに、あつた地味、  
その爲めに、あつた地味、

白雲山

同中九日 以下六條

南月、  
教、  
信、  
方、

一、  
介、  
此、  
忘、



























と申すに、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、























































可二條又創也  
此種知事皆略也  
其料者其脚者其  
皆云期者くすあ  
御抄者ききん  
河く但是也  
大略略者馬  
下れ古語  
くあわし  
物を申  
流火人  
以原

御抄者ききん  
河く但是也  
大略略者馬  
下れ古語  
くあわし  
物を申  
流火人  
以原

中二條十月四日書

一 御抄者ききん  
河く但是也  
大略略者馬  
下れ古語  
くあわし  
物を申  
流火人  
以原



中徳の... 日英... 唯后... 如ち... 然る... 本所... 老ゆ... 一信... 日英... 其... 出...

是... 日英... 其... 出... 中徳... 日英... 其... 出...







何事規ありて同知所乃天下流志其言存乎人其世漢  
法事人其性迷とドありて是事半の勿論要是と名も大なる  
多し戸ありて其出入事の又而料尚の同とありて  
節不及事半と居る人其言戸ありて是世流志其言  
居るに字を記す

一 國表に議同志人に見せしむる此言亦新井也と戸ありて  
世流しり其言の角と地を竊て事不有と大切なり見せり  
別の大志とありて事半也然るに其言流志其言と  
及事半とありて事半也

世流の世

世著述 王と名帝王の世也其後世著述と見しと王と名漢  
唐の皇帝の世の世に下と王と名世の世に下と王と名漢

王の世に世の中と見しと王と名世著述の世に代り  
王の世に世の中と見しと漢唐の世に下と王と名漢

帝王の外に王と名世著述の世に代り  
世著述の世に代り世著述の世に代り

世著述の世に代り世著述の世に代り  
世著述の世に代り世著述の世に代り

世著述の世に代り世著述の世に代り  
世著述の世に代り世著述の世に代り

世著述の世に代り世著述の世に代り  
世著述の世に代り世著述の世に代り































































































賤きもの獨り威嚴は異し人の心さる事御いふ事  
の如き恭請先きい御り時僕も夢に祈りて法行を  
りて天下の奇士と名を僕もつらう法行堂奇士の名  
に書る者もいん哉實に菅公と愛するの御事よ其のこ  
今吾兄徳望の高き事菅公母はすら母もす事  
はるるものよし學術文章すもあはれとらう菅公  
の及ぶるもの加へ 聖主の如遇か逢くも材力を  
振ふ事も菅公の故に徳居の如き事や  
僕もうゝ事同門文を厚くし此は春願の厚  
き事蒙る事日久く一稿もあはれ吾兄は愛する  
の深き御事僕もあはれとらう法行は法行文

五十一

は相公も事法行は僕も同門の故人よ事  
は既切徳の情多し又仁を輔るの道もあはれ  
今吾兄の寵愛すも忠告すも必りん今事  
は後承接は信に権利遠き事也 是常人の事也  
堂吾兄の事も事法行は僕もあはれとらう  
はあはれとらう吾兄志氣の間もあはれ吾兄 朝廷  
におおて將順匡救の切願赫々として人の耳目あり  
ははれとらう天下は大事業ありははれとらう  
並御すも事法行は吾兄の豪傑もあはれとらう胸  
中も事法行ははれとらう 堂吾兄事法行の事

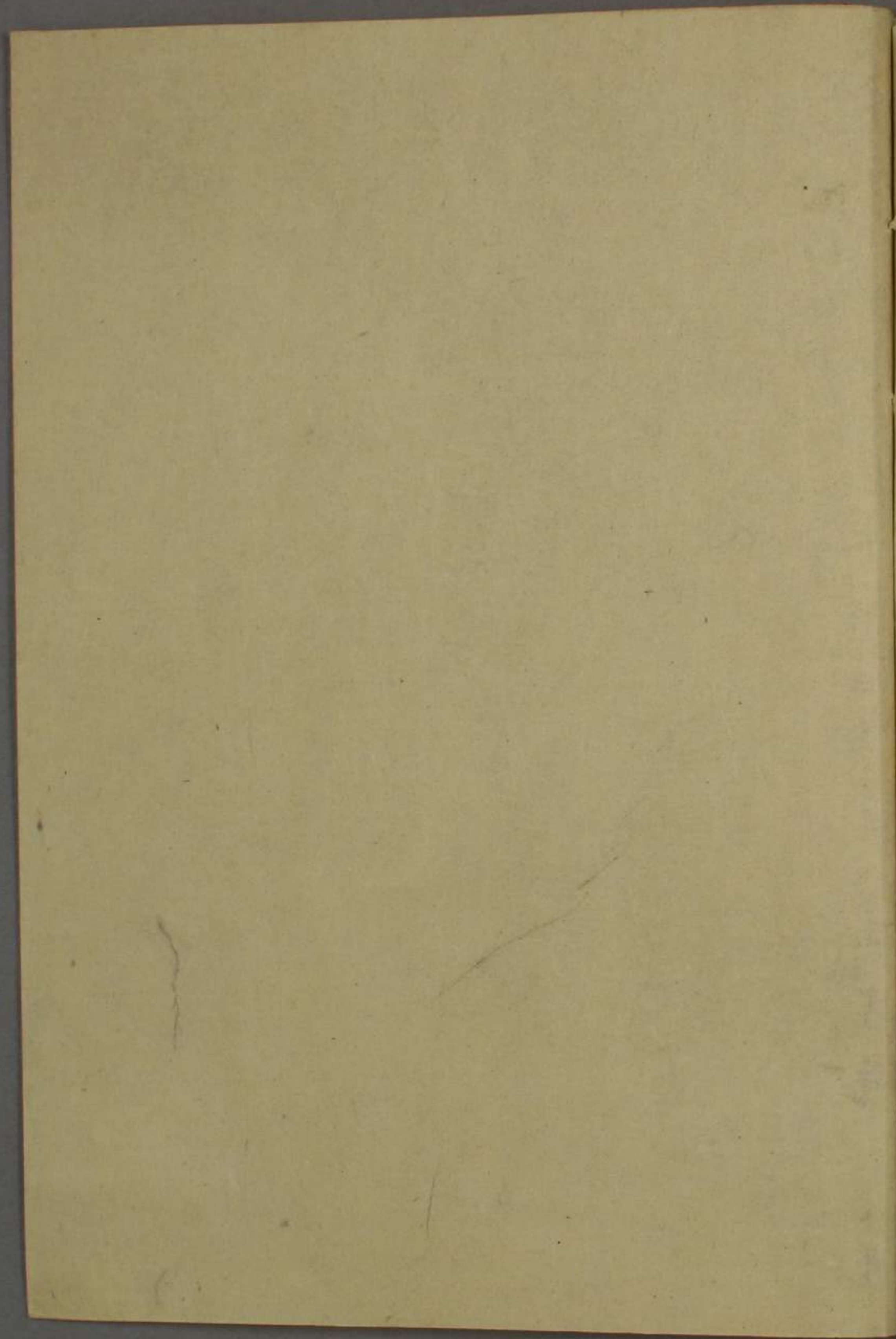


とらんらうの満の志あらんかき盤根錯節利  
刃のかり事あつて破竹の勢あるまふつて  
包の間おのつら剛銳果敢の氣盛りて謙退抑  
損の心すれり吾兄もまかしのこころまふとわく  
さらへし書曰有其善喪厥善矜其能喪其功僕  
れ吾兄其善と有るれまふ切を矜とらん事  
及も馬策の聖人たれ馮異の樹下辟  
古今の英傑とやれ吾兄のほろつきまふり  
考父の鼎銘とやれ一命而僕再命而偃三命而俯循  
墻而走亦莫余敢侮蓋も位愈のりまふ心愈下ま  
る壁の堂はゆるま上ま久の世まふはゆる下ま

の基とまふゆるまゆるれ必傾覆乃徳ありま今  
聖明上を飾り誇毀の志れ彼延喜の時とれ  
すも盈るの害と謙の福と盈るは愚人の  
を好する天人ふ易の常理なり信まふ人の  
僕れ吾兄謙くの心を乘りて天人の道とやれ  
ま譽と終りて德音推しつるま今吾兄寵  
錫の新らとやれ況とやれと視とらん  
吾兄其愚は衣の山まふ察細也よ不備

十月日





*[Faint, illegible handwriting in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*



